



神戸再生フォーラム

第10回総会議案書

◎日 時：2010年5月9日（日）午後1時～2時10分
◎会 場：神戸市医師会館市民ホール（3階）

「神戸は変わる。」まで、
震災復興は終わらない。
つくろう市民の市長を。

神戸再生フォーラム

650-0027 神戸市中央区中町通3-1-16 サンビル201号室

電話&ファクス：078-371-4595

Eメール：k-saisei@coral.plala.or.jp

公式サイト：<http://www.rekobe.net/>

公式ブログ：<http://blog.livedoor.jp/rekobe/>

郵便振替：神戸再生／00910-8-26480

目 次

タイムスケジュール／2

I.	2009年第17回神戸市長選挙総括	3
1.	選挙結果をどう見るか／3	
(1)	投票率からわかること／3	
(2)	樋野孝人氏の得票数／3	
(3)	樋野氏に投票した有権者／4	
(4)	日本共産党公認の松田隆彦氏の立候補は、樋野氏の得票にどのような影響を与えたのか ／6	
(5)	矢田立郎候補の民主党一党推薦依頼は、樋野氏の得票にどのような影響を与えたのか ／6	
2.	神戸再生フォーラムの市長選挙の到達点・課題／6	
(1)	樋野氏擁立の過程／6	
(2)	樋野選挙のかかわり方／7	
(3)	今回の市長選挙の問題点／8	
【資料1】第17回神戸市長選挙結果に対する神戸再生フォーラム高田富三事務局長の声明		11
II.	神戸市長選挙後の情勢	13
1.	神戸空港の現状と関西3空港問題／13	
2.	第3セクターへの派遣補助訴訟／13	
3.	六甲シンフォニーホール用地買収問題／13	
4.	中央市民病院移転問題／13	
5.	外郭団体（第3セクター）経営の危機顕在化／14	
【資料2】「神戸空港開港4年抗議集会」共同アピール／15		
【資料3】「神戸空港開港4年抗議集会」共同アピールに対する神戸市の回答／16		
III.	2010年度事業計画	18
IV.	2009年度会計報告並びに2009年度会計監査報告	20
V.	2010年度予算	22
VI.	2010年度役員	23
【資料4】神戸再生フォーラム会則／24		
【資料5】神戸再生規約／26		

タイムスケジュール

■神戸再生フォーラム第10回総会■

- 1時 : 開会 ⇒出口 俊一
- 1時02分 : 開会あいさつ⇒村井 雅清
- 1時05分 : 連帶あいさつ⇒林 英夫 (住民投票☆市民力)
- 1時13分 : 議案の報告 ⇒高田 富三、河村宗治郎
新H・P紹介⇒大西 誠司
- 1時45分 : 質疑・討論
3人 (神戸市水道の耐震、神戸市会議員のあり方、御影工業高校跡地の訴訟)
- 2時 : 採択
- 2時05分 : 新役員の紹介⇒代表・事務局、自己紹介
- 2時10分 : 閉会あいさつ⇒中島 淳

—休憩、会場整理—

■第8回神戸市政フォーラム■

- 2時30分 : 開会 ⇒出口 俊一
- 2時32分 : 開会あいさつ⇒竹山 清明
- 2時35分 : 講演
～4時25分 田中 康夫氏 (作家、衆議院議員、神戸再生フォーラム顧問)
「脱ダム」政策の哲学と実践
—日本「改国」宣言—

—休憩—

- 4時35分 : 質疑・応答 ⇒提出していただいた「質問用紙」にそって5人+1人
～5時20分
- 5時20分 : 閉会あいさつ⇒村井 雅清
- 5時30分 : 後片付け終了

■深川和美のミニコンサート■

- 5時35分 : 移動 (引率責任者・黒田達雄)
※会場⇒JR神戸駅⇒JR元町駅⇒トアロード・木馬
- 6時～9時 : 懇親会&ミニコンサート (木馬)

I. 2009年第17回神戸市長選挙総括

本章は、先の“第7回神戸市政フォーラム”（2009年12月1日）に提案しました「第17回神戸市長選挙総括」（第5次案）を踏まえていますので、重複を避けてのことと、「2009年度事業報告」を含んでいますことをご了承下さい。

1. 選挙結果をどう見るか

(1) 投票率からわかること

	有権者数	投票者数	投票率			有権者数	投票者数	投票率	
			今回	前回				今回	前回
東灘	163,972	50,779	30.97	29.11	長田	82,568	26,249	31.79	33.07
灘	103,200	36,625	35.49	31.47	須磨	137,394	46,797	34.06	31.37
中央	95,350	28,222	29.60	28.15	垂水	181,448	57,727	31.81	31.46
兵庫	90,849	27,420	30.18	31.55	西	194,541	58,818	30.23	28.71
北	182,308	55,482	30.43	29.01	市合計	1,231,630	388,119	31.51	30.23

過去17回の投票率BEST4

	1973	1947	1997	1989	(参考)	2001	2005	2009
投票率	59.02	50.09	45.04	43.72		38.14	30.23	31.51
投票数	541,829	156,523	510,445	462,754		449,672	366,817	388,119
当選者	宮崎辰雄	小寺謙吉	笹山幸俊	笹山幸俊		矢田立郎	矢田立郎	矢田立郎
2位	砂田重民	原口忠次郎	大西和雄	宮岡としお		木村しげよう	せと恵子	桜野孝人
	神戸空港	初普通選挙	震災・空港	助役対決				

投票率は、2005年をわずかに上回るだけで、2001年を超えることができませんでした。しかし、「どうせ決まっているから、投票には行く気がしない」と、低投票率となった宮崎辰雄市政の3期（1977年、81、85年）、笹山幸俊市政の1993年選挙のような20%台ではありませんでした。

掲示板のポスターを眺める市民が、「今度は、今までとは少し違うようだなあ・・・」と呟いたりする風景が見られ、何か変わりそうという予感を与えましたが、これはぜひ参加をしようという気持ちを大きくかき立てる選挙にはなりませんでした（「神戸新聞」出口調査分析、2009年10月26日付を参考）。

(2) 桜野孝人氏の得票数

	桜野	矢田	桜-矢	松田		桜野	矢田	桜-矢	松田
東灘	21,185	20,248	937	8,306	長田	9,945	10,903	-958	4,989
灘	14,740	14,695	45	6,538	須磨	21,075	17,781	3,294	7,329
中央	12,270	11,126	1,144	4,424	垂水	23,224	24,828	-1,604	8,866
兵庫	10,327	11,473	-1,146	5,048	西	21,629	28,229	-6,600	8,204
北	21,783	24,747	-2,964	8,061	市合計	156,178	164,030	-7,852	61,765

過去3回の選挙候補者得票数

候補者	2001	候補者	2005	候補者	2009
木村しげよう	118,893	せと恵子	105,780	樺野孝人	156,178
矢田立郎	209,681	矢田立郎	198,661	矢田立郎	164,030
吉田順一	60,904	松村勉	56,903	松田隆彦	61,765
池上あきら	38,645				
上野やすあき	14,189				

当選者との差が7, 852票というのは、これまでの神戸市長選挙で一番の僅差でした。選挙戦術面で見れば、選挙対策本部の機能と投票日当日における最後の詰めの差と言えます。

(3) 樺野氏に投票した有権者

①矢田氏はなぜ苦戦したのか

矢田氏の支持基盤は、政党支持で見ると推薦を唯一求めた民主党だけでなく市会与党である自由民主党（自民党）と公明党の各支持層です。ただし、ここ数回の市長選挙において、市役所出身市長候補に対して、市会の枠組みを超えて対立候補が善戦する傾向があります。

それでも今回、矢田氏はなぜここまで苦戦したのか。その理由はまず、矢田氏の2期目の業績を評価する神戸市民が少なかったことが挙げられます。

「神戸新聞」の出口調査によれば、矢田氏の2期目を「評価する」より「評価しない」が上回っています。「評価しない」の66.3%が樺野氏に投票、松田氏は31%でした。

なお、「どちらとも言えない」と答えた内、矢田氏は35.7%、樺野氏は43.7%で8%も上回りました。これは、市民がどちらに期待をかけるかを示したものと言えます。

矢田氏の2期目を評価するか(神戸新聞出口調査より)			
評価する	評価しない	どちらとも	無回答
26.4	32.5	40.0	1.1

「新市長に取り組んでほしい課題」は、「経済・雇用（27.2%）」「医療福祉（26.5%）」「子育て・教育（16.4%）」「市の財政改革（15.5%）」が上位を占めています。これには、神戸市単独で解決できない要素もありますが、これらに対する矢田市政の取り組みに大いに不満があったとも言えるのです。

②矢田氏には誰が投票したのか

神戸新聞出口調査結果(2009年10月26日) %

	政党支持率	(2005支持率)	矢田	樺野	松田	白・無投票
民主	36.6	(18.4)	47.4	39.7	11.6	1.3
自民	20.2	(35.4)	54.9	38.3	4.0	2.8
公明	4.8	(5.8)	38.3	45.0	1.7	15.0
共産	7.6	(8.0)	1.1	4.2	93.7	1.1
社民	1.1	(2.3)	21.4	50.0	28.6	0.0
支持なし	25.7	(28.1)	28.7	52.6	15.0	3.7
みんなの党	1.4	—				
	97.4	(98.0)				

民主党支持層の半数以上が、矢田氏には投票しませんでした。2005年10月の市長選挙

(「神戸新聞」2005年10月24日付)においても、矢田氏を推薦した民主党支持の半数、社民党支持の7割が瀬戸・松村両氏に投票していました。この2党の支持層では、震災後の神戸市長選挙では、政党の意向にはとらわれない傾向が出ています。「現体制批判という意味で民主・社民両党を支持する」のであって、「両政党を支持する」→「両党が推薦する矢田氏を支持する」につながりませんでした。今回も同じ結果が出ています。

社民党の場合は今回、矢田氏を推薦していませんが、推薦していても同じような結果が予想されます。

また、民主党支持が前回18.4%から今回36.6%に増えていますが、従来の「自民支持層」が民主支持に回ったと考えられます。「支持政党なし層」が、ある時には「自民党支持層」になり、ある時には「民主党支持層」になっているだけで、固い「民主党支持」が増えたとは言えません。

一般にこの層は、保守層と見られますが、その層が加わった民主党支持層の半数強が矢田氏離れをしていることは、矢田氏の不人気が深刻であることを示しています。支持政党なしの層も前回4割が矢田氏だったのが、今回は3割を切っています。

2005年選挙と特に異なるのは、前回ほぼ矢田氏に集中した自民・公明支持者の票です。自由投票となったことも影響し分散しました。自民・公明支持層においても矢田市長に対する批判が多かったのです。

今回の選挙で特定政党支持→特定政党の公認・推薦候補投票となっているのは、日本共産党以外にありません。それでも「神戸新聞」(2009年10月26日付)によれば、「党員からは『なぜ無理に立候補する必要があったのか』との声も漏れ聞こえてきた」とのことです。

このことは、今後の市長選挙では、政党の支持を取り付けるというだけで市民の票が取れるということは難しくなってきていること、政党の合従連衡に力を注ぎ、大物議員の力を借りて票集めなどをするのではなく、むしろ候補者の資質に注目し、市民にいかに直接訴えて、信頼を勝ち取るかがより大事になっていくであろうことを示しています。大阪府知事・同市長、名古屋市長選挙などの例も「他山の石」として念頭に置いておくことが必要でしょう。

③樫野氏の健闘した理由

それでは、神戸市民にとって全く無名の存在であった樫野氏がこれだけの票が取れたのはどうしてでしょうか。

- i. まず巧みなマスコミへの露出に成功したことが挙げられます。政策の変更・政党や有名知事・議員の支持を得るために迷走した姿さえもプラスにして新聞に掲載される仕掛けに成功したこと。
- ii. 政策においても、整合性よりは映画・スポーツなどで思いつきのようなものもありましたが、目玉政策を提案したこと。
- iii. 中軸の部分では、「ハードからソフトにチェンジ」「しぶしぶ情報公開から元気な情報発信にチェンジ」「官僚主導から市民が主役にチェンジ」と矢田氏と対峙することを明確にし、中央市民病院移転問題・神戸空港問題・住民投票条例などで「矢田氏と違う」「神戸を変える」という意思が明確にわかるようにすることに成功したこと。そしてそれを「神戸は変わる。」という単純未来の形で表すことにより、市民に展望・自信を与えたこと。

- iv. 小規模な対話の繰り返しや神戸市内全駅での駅立ちなどで、一つひとつの行動は、果たして値打ちがあるのかと思わせるものもありましたが、積み重ねた現場主義は市民に好印象を与えたこと。
- v. 神戸の現状をよく把握できていないこと、未完成な政策や整合性のなさを逆に武器として話を聞くという本人の特性をフルに活用し、好印象を集めたこと。
- vi. 本人の経験が神戸市役所と全く接点がなく、「今太閣的」な社会での成功者であることが市民に親近感・安心感を与え、「樺野さんに任せてみよう」と市民を思わせるのに成功したこと。

つまるところ、市民が「矢田では駄目だ」と感じていたことを、「樺野に任せてみよう」と思うように結びつけることに成功した結果であると言えます。

(4) 日本共産党公認の松田隆彦氏の立候補は、樺野氏の得票にどのような影響を与えたのか
矢田氏の2期目を「評価しない(投票者の32.5%)」の66.3%が樺野氏を、31%が松田氏を選びました。これは、矢田氏を批判する票が2:1に分裂させられたのです。「どちらとも言えない」層の相対的多数(43.7%)が樺野氏を支持しているため、松田氏が立候補しなければ、樺野氏の当選は間違いないませんでした。

(5) 矢田立郎候補の民主党一党推薦依頼は、樺野氏の得票にどのような影響を与えたのか

矢田氏を支援する市役所を中心とした集票マシンは、前回同様に活動しました。神戸財界主流は、矢田氏を応援しました。固められるところは固めたのです。自民党の推薦があったとしても大きく変わることはなかったでしょう。公明党支持者の白票・無投票に民主党一党推薦のマイナスが現れている程度ではないでしょうか。むしろ、自民・公明・民主3党が推薦していたら、3党相乗り批判が高まって矢田氏にはより不利な結果が出ていたことも考えられます。

2. 神戸再生フォーラムの市長選挙の到達点・課題

(1) 樺野氏擁立の過程

2009年9月27日、神戸再生フォーラム(フォーラム)は樺野孝人氏を推薦しました(第9回臨時総会、神戸市産業振興センター／70人)。今回の推薦決定に至るまでの間、立候補の意思表明をしていただいたお一人の方には事情により最後まで、結論を保留させていただきました。事情があったとはいえ、貴重な意思を生かせなかつたことにまず、謝罪をしておかなければなりません。

樺野孝人氏を推薦するまでの経緯は、以下の通りです。

- ① 2009年4月27日、神戸市会の住民投票☆市民力議員団の井坂信彦市会議員の紹介で出会いました。そして、6月29日以来20数回の懇談を重ね、信頼関係を築きました。
- ② 7月終わりまでフォーラムと樺野氏との間では繰り返し共同を模索し、ともにたたかっていける手ごたえを得て7月25日、会員の兵庫県保険医協会、8月に入り兵商連及び各区民商の会長・事務局や「ストップ！神戸空港」の会役員などとの面談を平行実施してきました。
- ③ 7月18日、神戸市長選挙に向けて“市民決起スタート集会”(第6回神戸市政フォーラム、あすてっぷK O B E／62人)を開催しました。

- ④7月16日、新社会党幹部が、同18日、日本共産党幹部が樋野孝人氏と懇談し、両政党とも「好感触を得た」とのことでした。
- ⑤8月中旬からは、樋野氏とそのブレーンと共同して政策を作成する作業に入りました。途中から井坂市会議員も交え、9月初旬に樋野氏の基本政策である「3つのチェンジ」「7つのビジョン」と同氏の想いのこもった「『神戸は変わる。』かしのたかひと」で構成された機関紙16号「神戸は変わる。」（機関紙「神戸再生」を暫定的に名称変更）を作成・発行しました（50万部）。
- ⑥一方、樋野氏のブレーンの中にフォーラム外しの動きが表面化してきました。8月後半から樋野氏のブレーンにおいて政策細目作りが進行し、出来上がった案をフォーラムに提示するという現象が起り、厳しい遣り取りをせざるを得ない場面も生じました。
- ⑦9月5日、樋野氏のリクルート時代の先輩である藤原和博氏の講演会が開かれました。フォーラムとしては、藤原氏の理論・考え方とは相容れないものがありました。これが原因で袂を分かつ問題ではないと判断し、またそれだけ樋野氏の支援者には広がりがあることと認識し、意見の違いがあることについては樋野氏に伝えました。
- ⑧9月6日、政策「神戸再生プログラム」（第13次案）を提示して樋野氏との政策すり合わせを行い、樋野氏の修正提案を受け合意しました。ところが真夜中に激変、文書協定の交換について白紙となりました。
- ⑨9月7日、樋野氏は民主党の推薦を求めました。
- ⑩9月7日に開かれた日本共産党、新社会党との協議の場で、共産党幹部から「神戸再生フォーラムが樋野氏を推薦することは共産党と手を切ることだ」。さらに「民主党に挨拶に行ったのに、共産党には来ていない」という発言がなされました。
- ⑪9月8日、樋野氏との政策合意を前提に第8回臨時総会（神戸市産業振興センター／100人）を開くも、当日までに文書協定が交わされていませんでしたので、推薦決定を先に延ばしました。
- ⑫9月17日、日本共産党、新社会党との協議の場で、共産党は枠組みを離脱し、独自候補擁立を宣言しました。
- ⑬9月27日、第9回臨時総会を開催、文書協定を交わすことはできませんでしたが、以下の3項目の方針を圧倒的多数にて決定しました。
1. 樋野孝人氏の当選に全力をあげて取り組みます。
 2. 但し、会員を拘束するものではありません。
 3. 候補者の一本化に向け、最後まで最大限の努力を行います。
- 樋野氏も終始参加し、直後の“第3波市民決起集会”で決意の表明がなされました。
- ⑭9月28日、新社会党は樋野氏当選のため、協力・支援を表明しました。

（2）樋野選挙のかかわり方

- ①10月4日、樋野氏より高田富三事務局長の選挙対策本部入りを要請されました。ところが、翌5日、予定期刻の午後9時30分に選挙事務所を訪れるも、まだ選対メンバーに話していないゆえ外で待つように言われ、午前0時まで待つも連絡なく、その後の連絡にて樋野氏から「選対会議で高田さんをメンバーに入れることには、反対が多数のため、選対に参加してもらえないとなった」「神戸再生フォーラムのメンバーが選対に入ると、フォーラムがどんな

グループであるかとは別に、マスコミや政党から左と見られるため、樺野陣営が左旋回したように見られることは、大変不利である。現選対には問題あるが、よりしっかりとやっていく、フォーラムの力を借りなくていい」という選対会議の結論が伝えられました。

②その後、元市会議員の方たちが精力的な動きをし、フォーラムの参画できる方法を模索し試行もしましたが、実りませんでした。

③一方、選挙が終わるまで多くのフォーラムのメンバーは選挙事務所に詰め、ポスティング、ビラまき、ポスター貼り、イベント協力などの選挙実務を遂行しました。

④10月10日、選対事務局長名で、「・・・樺野孝人の政治スタンスは、右でも左でもあります。(新社会党および神戸再生フォーラムは)勝手連としてかしのたかひとの支援を表明…、特定の団体でなく、神戸市民お一人おひとりの支援をいただくべきであると考えています…」と、記者発表しました。

⑤10月18日、“第4波市民決起集会”(神戸市産業振興センター／44人)を開きました。9・27第9回臨時総会決定の後、樺野選挙対策本部の排外主義的対応により選挙の具体的な取り組み時に大きな支障を来たしましたが、代表・事務局会議での繰り返しの議論を経て、次の基本方針を堅持して最後まで取り組みました。

1. いかなる状況になんでも「神戸は変わる。」の樺野孝人で10月25日、神戸市民革命を実現します。

2. 街頭では中学生までが「かしのさーん・・・」と寄ってきています。次第に“かしの風”が吹き始めています。台風はお断りですが、“かしの風”を勢いづけて投票率をアップさせます。

3. ギリギリまで、候補者一本化の努力を続けます。

⑥10月19日、フォーラムのメンバー有志が“研究者・文化人の集い”(兵庫県私学会館／36人)を開催。参加した樺野氏を激励し、選挙最終盤の盛り上げに貢献しました。

(3) 今回の市長選挙の問題点

①資金調達力

資金調達力のなさが露呈しました。政治団体「神戸再生」が資金管理団体となりえなかつたため、税法上の特典がなく、寄付を集めることに困難を來しました。日頃の集金能力の弱さゆえ、2005年選挙の残資産で賄ってきましたが、脆弱な財務体質の改善がない限り、サドンデス(突然死)もありうる状況です。

②団体依存度

機関紙「神戸再生」の発行、集会の車の手配、会議場所の提供などで、兵庫県商工団体連合会(兵商連)、兵庫県保険医協会への依存度が高くなっていました。今回、「兵商連」「兵庫県保険医協会」「『ストップ！神戸空港』の会」の退会で、個人会員が、フォーラムの運営をより強力に支えていかなければなりません。一方、団体の加入も引き続き追求していかなければなりません。

③神戸市長選挙候補者を擁立・推薦するにあたり、共同する一致点をどこに置くか、また、文書協定は必要か

日本共産党が今回の市長選挙においてとった方針は、運動論的には全くの誤りでした。なぜなら、日本共産党兵庫県常任委員会の「神戸市長選挙の結果について」では、「矢田氏の・・・得票率は、過去の当選者で最低の42.9%となりました。現市政への市民の厳しい批判が示される結果となりました」と述べています。

共産党の今回選挙の目的は、一体何だったのでしょうか。矢田氏の支持を減らすことだったなら、成功しています。しかし矢田氏を追い落とし、市民本位の市政実現を目的としていたなら、それまでの共同の積み重ねを反故にし9月下旬になって突然、公認候補者を立てるべきでなかったことは歴然としています。

共産党は選挙期間中、「矢田批判はどこにいった・・・」と言われるぐらい樫野氏批判を強めていました。ところが「神戸市長選挙の結果について」においては一言も樫野氏を批判していません。本来なら、矢田氏に迫る勢いの票を集め、政策においては共産党と相容れないがごとく主張していたのですから、矢田氏と樫野氏の票を足したものと共産党が得た票を比較すべきです。共産党は樫野氏の得た票を矢田批判票に数えるという誤りを犯しました。共産党の論理でいえば、敵が一本化できずそのおかげで矢田氏は苦戦したと総括すべきです。そうしないのはご都合主義というほかありません。

樫野氏と共産党の政策を比べると、特に教育問題では一致していないものがありました。中央市民病院移転や医療問題では、ほぼ一致していたと言えます。樫野氏が、政策「神戸再生プログラム」（第13次案）の内容をかなり取り入れたからにはなりません。住民投票条例のことなどは、樫野氏の方が先行していました。福祉の方向性も同じでした。

神戸再生フォーラムはこの間、神戸市の「無駄遣い」「出し惜しみ」について批判を強め政策をまとめきました。無駄な公共事業をやめ、第3セクターのあり方を見直し、市役所および組合幹部職員・OBの優遇を止めさせ、市民の生活に必要な福祉・教育に転換する市長を選ぼうとしてきました。

政策「神戸再生プログラム」（第13次案）は、神戸再生フォーラムが提案する神戸を変える設計図です。

1998年の「大事なことはみんなで決めよう」という住民投票運動が提起したのは、「市民が主役」「市民が参画する神戸市政」でした。「神戸空港建設に賛成であれ、反対であれ、市民が直接決めよう」ということに30万市民の声が集まったのです。神戸空港反対に集まつたのではありません。

矢田市政の過去8年間は、相変わらず市民の参加・参画を拒んでいます。神戸市政において「真の市民参画の実現をめざす」かどうかが現在の神戸市長選挙候補者選択のメルクマールでした。これが「神戸は変わる。」の3つのチェンジに「しぶしぶ情報公開から元気な情報発信にチェンジ」「官僚主義から市民が主役にチェンジ」と掲げられています。

後はこれを実現すべき方策が謳われていますが、その中身は玉石混交です。今はやりの事業仕訳も入っています。これら全てを評価しているのではありませんが、方向性については十分同意できるものでした。それを100%同意しなければというのは驕りであり、自分と異なる意見を持つものを排除しようとする独善と言わざるを得ません。

以上の観点から、神戸市長という幅広い市民の代表を推す場合に、文書協定を結ぶ必要があるのかどうかを再検討する必要があります。

1998年のあの住民投票条例制定運動を想い起こしましょう。

「大事なことはみんなで決めよう」 = by THE PEOPLEを求めたのであって、
「神戸空港建設反対」 = for THE PEOPLEを求めたのではないことを。

④排除の論理のデメリット⇒「反共攻撃」と「新自由主義攻撃」について

神戸再生フォーラムは、共産党からは偏狭な党派主義による攻撃を受け、一方、樋野選対からは、言われなき「反共攻撃」を浴びました。これは、先ほどの3つのチェンジと真逆の思想です。

10月25日の選挙投票日の前日に確認団体ビラが出来上がり、これをフォーラムのメンバーは数万単位で市民に配りました。しかしその内容は、市民に訴えると言いながら「自民党」「民主党」「公明党」支持者に訴えるというもので、「共産党」「新社会党」支持者に訴えるという文言はありませんでした。

市民を思想・政治・信条で区別あるいは排除することは、「市民が主役」「市民参画」とは相容れません。樋野氏のいう3つのチェンジが、選対幹部の言動を通じて信憑性の乏しい怪しげなものとされてしまいました。投票日当日、樋野選対に参画しているT市会議員が、「神戸再生フォーラムに声をかけたのは、独自候補を立てさせないため」と吐露しましたが、本音が出来てしまったということでしょう。

候補者を利用し、自らが煙たいと思う人物や団体を囲い込み、身動きを取れないようにして、反共・排除の思想で、第3極づくりにいそしむことで、選挙が勝てると思ったのでしょうか。いや勝つことができるならば自らが立候補していたでしょう。今回中心になったI市会議員は2005年市長選挙の準備過程での立候補の打診に対し、「勝てない選挙には出ない」と言って断りました。今回I市会議員が立候補をせずに、選対の中心に座ったのは、勝てると思わなかつたからでしょう。樋野氏の最大の不幸は、このような選対に牛耳られたことでした。

本当に「市民が主役」「市民参画」を実現しようとするならば、「共産主義者」であれ「新自由主義者」であれ、排除するのではなく、お互いを認めて手を組むことです。一方で「藤原和博は駄目・・・」、一方で「あいつは、左・・・」と言い出せば、誰もいなくなります。違いは、議論を深め実践していくべき現実を直視している限り結論が出てきます。それをやらず、レッテル貼りをするならば、今後いつしょには手を組めないということになります。

「共産党と組むと票が減る」という意見もあり、だから「選挙対策上、排除する」とも言います。少なくとも、神戸市長選挙で言い出したのは、震災後ではないでしょうか。あの宮崎市長が2期目に勝ったのは、共産党と手を結んだからです。その後、1995年の震災直後まで、共産党は与党でした。「共産党と組むと票が減る」という言葉は、共産党を利用する時は言わず、敵対する時は、誹謗するために使われる言葉です。

今回、日本共産党兵庫県委員会が公認候補を出していなければ、その獲得した6万1,765票の大部分は、樋野氏に流れていたことは間違いないでしょう。共産党の立候補とともに樋野選対の共産党支持者排除、神戸再生フォーラム排除、新社会党排除の失敗は、今後決して繰り返さないことを肝に銘じておかなければなりません。

「みんなちがって みんないい」という違いを認め協働する寛容の思想が、いま改めて求められているのです。

【資料1】第17回神戸市長選挙結果に対する神戸再生フォーラム高田富三事務局長の声明

2009年10月26日

神戸再生フォーラム事務局長の高田富三です。

第17回神戸市長選挙が終わりました。樺野孝人さん、ほんとうにありがとうございました。

神戸市民のみなさん。

この市長選挙に心を寄せていただき、応援していただきました全国のみなさん。

最後まで困難を乗り越えてともに取り組んでいただきました多くの市民のみなさん方に心よりのお礼を申し上げます。ありがとうございました。

そして、樺野孝人さん、ほんとうにありがとうございました。

2009年神戸市長選挙において、神戸再生フォーラムが応援した樺野孝人さんは、わずか7,852票の差で勝利を得ることができませんでした。

9月3日の立候補表明以降、わずか2か月に満たない間に、「3つのチェンジ」を掲げ、神戸を変えたいという市民の「情熱仕掛け人」として樺野孝人さんは全市を駆け巡り、市民が奮起することを訴え、10月25日には156, 178人の仲間を集める結果を出しました。

神戸再生フォーラムは、「無駄遣いと出し惜しみの矢田市政」「60年続く助役出身市長」を終わらせ、多くの市民が求める「市民が主役の神戸に変える」には、樺野孝人さん以外にないし、機関紙「神戸は変わる。」（第16号）を発行、9月27日、支援を正式に決定しました。

樺野孝人さんには要望されたにもかかわらず、残念ながら選挙対策本部から参加を拒まれ、神戸再生フォーラムのメンバーであるというだけで、選挙運動の参加にも妨害がありましたが、基本的な選挙実務の不足した選対スタッフを支え、候補者ビラの証紙貼付、掲示板のポスター貼り、ポスティング、開票立会人の申し出などで貢献することができました。

また、政策面・法定ビラ問題等々でアドバイスや協力もさせていただきました。もっと積極的に参加できていたらという気持ちで一杯です。

この市長選挙から得た教訓は、思いつくままでも、次のようなことが挙げられます。

1. 人格的に優れた候補者であるならば、短期間であっても、神戸市民には見抜く力があるということ。

⇒神戸市民の樺野氏に対する評価。

2. 首長選挙では、個々の政策も重要であるが、「候補者が市民の方を向いているのか？市民主役の神戸市政かどうか？」という方向性がもっと大事であること。

⇒40年ぶりの公認候補を立てた日本共産党にとって、「大同」とは何だったのか？

3. どんなによい候補者であっても、それを取り巻くブレーンは、候補者に無駄な精神的負担をかけさせてはいけないこと。

⇒選挙に入るまでに、毎晩就寝が午前2～4時、5kgもやせた候補者残酷物語。

4. ブレーンは、神戸の現実を正確に把握し、それを候補者に正しく伝え、その元で「おもいつきでない」政策を立案すること。

⇒既存の神戸映画祭があることを知っていたのか、樺野映画祭のコンセプトは何か？プロバス

ケットチームの根拠は？

5. ブレーン及びスタッフは、選挙実務の最低限の知識をもっていること。

⇒枚挙にいとまがない事例。

6. 選挙は基本的に足し算であること。

⇒排除の論理で得たものと失ったもの・損なったものは何か？

「もしも」という言葉は言ってはならないことかもしれません、権謀術数をめぐらさず、樺野さんの人格と方向性だけを大事にし、それを素直に表現するだけで、もっと市民の支持が得られ、勝利できたのではと思われてなりません。

神戸再生フォーラムは今後、市民的にオープンな議論で選挙総括をすすめていきたいと考えています。忌憚のないご意見・ご感想をお寄せ下さい。

機関紙「神戸は変わる」（第16号）掲載の樺野さんのメッセージの最後の部分を紹介しておきます。

すべての問題の原因はそこ（※）にあると僕は思う。

だからこそ、僕がやらなければと思った。

僕はそれを変えたいと思った。

みんなと一緒にになって変えられると思った。

だから、信じて託してください。

そう、絶対に、神戸は変わる。

（※）今の市役所全体が「神戸市民を本当に幸せにしたい」というチームになっていないということだ。

「市民のために」というシンプルだけど、一番大事な気持ちで市役所が一つになっていないということなんだと。そうしたくてもできない「見えない何か」に縛られているんだ。

「みんなの力で神戸を変えたい」と、訴えてくれた樺野孝人さん、

神戸市民に、勇気と希望を与えてくれてありがとう。

神戸市民は貴方とともにもう一度たたかいたいと心から思っています。

神戸市長選挙結果（2009年10月25日投開票）

○矢田立郎 164, 030

○樺野孝人 156, 178

○松田隆彦 61, 765

以上

II. 神戸市長選後の情勢

1. 神戸空港の現状と関西3空港問題

市債2303億円のほとんどを空港島の売却で目論んでいますが、2009年度は売却0で、2010年度償還予定650億円のうち200億円を20年先送りすることにしています。

着陸料収入も2009年度において実質赤字でしたが、2010年度はJALの撤退もあり、黒字が見込めない状況になっています。神戸空港と関西国際空港を結ぶ海上アクセスは、相変わらず損の垂れ流しで、市民の中からもその存在に、疑問の声が大きくなってきています。

一方、橋下徹大阪府知事が提起した関西3空港問題で国土交通省は、神戸空港を外し、伊丹と関空の2空港を対象に、支援策を講ずる様相です。神戸空港は、自力で延命策を考えなければならぬように追い込まれました。

2. 第3セクターへの派遣補助訴訟

2009年11月27日、「神戸市が派遣職員の人事費のための外郭団体への補助金は違法であり、それを神戸市は各外郭団体あるいは市長から取り戻さなければならない。神戸市会の債権放棄は無効である」という判断が大阪高等裁判所でなされました。総額約55億円を市長らに請求せよという判決でした。

神戸市は最高裁判所に上告しましたが、司法は行政のお金の使い方、地方議会の形骸化には厳しい判断が続いているので、上告が棄却される可能性があります。判決は、早ければ2010年中に出ると予想されています。この場合、市長の進退問題に発展することが予想されます。

3. 六甲シンフォニーホール用地買収問題

布引のクラウンプラザ、ロープウェーの南西に位置する駐車場が舞台となっています。

1991年4月神戸市は神戸市土地開発公社を介在させて、民間企業（川汽殖産）と土地交換しました。神戸市は名谷近辺の土地4,973.44m²を49.7億円（100万円/m²）で、川汽殖産は布引の土地4,831.02m²を107.7億円（223万円/m²）で売りました。

また同地に隣接する土地877.77m²を神戸市土地開発公社を介在させ、民間企業（FVL）から53.1億円（605万円/m²）で買いました。銀行支配人に媒介報酬5300万円を支払うというおまけもありました。

その後、両物件は11回に分割して神戸市土地開発公社から神戸市が買い上げました。この取引により現在の簿価は金利が上乗せされたため220億円、現在評価は11.5億円で、含み損は208.5億円となっています。

1991年当時は、まだ六甲シンフォニーホールの計画を着手し始めた頃です。神戸市外部監査人は「土地取得が早すぎる」と疑問を呈しています。

4. 中央市民病院移転問題

2011年7月に独立行政法人神戸市民病院の新中央市民病院は、移転の予定です。

遠くなることの不安、差額ベッドの不安、知らない間に医療産業都市の下請化となり人体実験のモルモットにされないかという不安、行政独立法人のため効率の悪い治療は切り捨てられないかという不安などは積み残したままです。出来上がれば市民への負担はもっと厳しくなることが懸念されます。

5. 外郭団体（第3セクター）経営の危機顕在化

2010年4月15日、今まで外郭団体の中でもあまり注目されていなかった16団体に関して、「神戸市外郭団体経営検討委員会」の中間検証報告が発表されました。

16団体のうち8団体が「今後のあり方を見直すべき」という厳しい評価を受けました。また16団体全体の110事業のうち、11事業について「早急に抜本的な見直しが必要」とされました。基本的に推進の方向で考えられている委員会ですらこのような評価となっています。

【資料2】「神戸空港開港4年抗議集会」共同アピール

神戸空港問題は終わったのか？－開港4年を問う
「神戸空港開港4年抗議集会」
共同アピール

昨年9月の政権交代に託した国民の思いをよそに、現下の政治経済情勢は低迷の一語に尽きます。また、昨年の神戸市長選挙における、矢田市政に対する厳しい評価は何を語っているでしょうか。

このような情勢の中で、去る1月17日の「阪神・淡路大震災15年」に続いて、本日、神戸空港開港4年を迎えました。昨年の抗議集会でも私たちは問い合わせましたー「果たして、神戸空港問題は決着がついたのか？」と。その回答は今や歴然としています。多岐にわたる未解決課題は、いまだなお積み残しのままであります。今、何よりも求められるのは、過去の検証を踏まえた厳正な現状分析です。

社会経済情勢の動向に翻弄される需要／進捗しない土地処分など破綻寸前の空港財政計画／空港島周辺で顕著になってきた海洋環境の悪化／依然として潜在的危機状況のままの空域管制問題などの未解決課題を直視せねばなりません。更に、この所、関西3空港のあり方をめぐる議論が急浮上してきました。

そもそも、神戸空港基本計画が策定され、大阪（伊丹）空港の存続が決定された1990年時点で、広範囲な関係者間で、3空港のあり方（必要性、需要、採算性、位置付け、連係、メリット・デメリット等）について徹底した議論が怠られてきた所に、今日の迷走状況の遠因があったと考えざるを得ません。「3空港造る前に議論すべき」（毎日新聞 川柳自慢）とは、私たちが神戸空港開港以前から指摘していた所です。一番問題なのは、設置管理者である神戸市がこうした課題についての危機意識が乏しく、厳しい自己検証を怠ってきたことです。

開港4年に当たって、私たちは市民として、神戸空港問題が決着済みではなく、依然として「全市民的課題」であり続けることを確認し、山積する課題を追跡・検証する必要性をさらに訴え続けることを、ここに改めて表明します。

以上、決意表明します。

同時に、神戸市に対して、次の緊急要望をします。

- ①矢田市政の「参画と協働」の理念が形骸化していないか、検証すること。
- ②関連資料を全面公開するとともに、これまでに指摘されていた全課題を速やかに精査・検証して説明責任を果たすこと。
- ③速やかに需要見通しおよび財政計画の検証を行い、市民に発表すること。
- ④国に対して、安全な関西空域の設定を早急に求めること。
- ⑤空港関連外郭団体の全面的見直しおよび海上アクセス（株）を直ちに清算すること。

2010年2月16日

「神戸空港開港4年抗議集会」参加者一同

【資料3】「神戸空港開港4年抗議集会」共同アピールに対する神戸市の回答



神市參広聴第9043号

平成22年3月4日

「神戸空港開港4年抗議集会」参加者様

神戸市長 天田立郎

早春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、神戸市行政にご協力をいただきありがとうございます。先日いただきましたご要望につきまして、お返事をさせていただきます。

神戸空港の開港から4年余りが経過しましたが、利用者数は累計で約1000万人を超え、神戸市内はもとより近隣都市の方々にも幅広くご利用をいただき、神戸空港は関西圏の新たな玄関口として定着してきたと考えています。

神戸空港は、300万人を超える後背圏人口を有することや優れたアクセス利便性などから、潜在需要は十分にあると考えています。今後とも、神戸空港の利便性を広く、きめ細かくPRすることによって、潜在需要を掘り起こし、利用促進に努めていくこととしており、需要予測を見直す予定はございません。

空港島の関連用地については、都心に近い利便性、大きなマーケットを後背に控えた優位性などをアピールしつつ、積極的な企業誘致活動を展開しており、神戸空港島西緑地において結婚式場など集客施設の運営を行う株式会社ワールドブライダル神戸が平成20年11月にオープンし、小型航空機機能用地についても、小型航空機のパイロット育成等を行う学校法人ヒラタ学園の施設が平成21年7月に完成しました。また、空港島連絡橋東側にある保管施設用地についても、株式会社ヒラタ学園が平成21年12月に操業を開始したところです。現在、世界的な不況の中で、景気の先行きに不透明感はありますが、今後とも、神戸エンタープライズプロモーションビューローを中心に全庁一丸となって企業誘致に取り組み、空港島の処分促進に努めてまいります。なお、神戸空港の財政計画につきましては、基本的枠組みは変わっておらず見直す予定はございません。

神戸空港が環境に与える影響につきましては、空港島埋立工事に着手した平成11年度から「神戸市環境影響評価等に関する条例」の規定に従い、事後調査を実施し、その結果を公表しています。また、事後調査報告書をレビュー（再評価）としてとりまとめ、関係機関に提出しています。

神戸市環境影響評価審査会は、「近年の神戸海域における低層DO濃度の低下傾向は、神戸



海域全域で概ね同様の変動傾向を示していることなどから、自然的な要因によるものと考えられる。」としており、神戸空港島の海洋環境に与える影響は軽微であったと考えています。

神戸空港は空の防災拠点として、災害時には多くの食料、医薬品、衣類などを迅速に輸送し、重傷者を緊急搬送するなど大きな役割を担います。地盤沈下については、概ね予測沈下量と合致しており、地盤沈下が神戸空港の空の防災拠点としての機能に影響を与えることはないと考えています。また、活断層については、平成11年7月に「阪神・淡路大震災と神戸の活断層」としてとりまとめています。

神戸空港発着機の管制につきましては、国において関西国際空港、伊丹空港の発着機とともに広域一元管制が行われており、開港以降、安全な運航の確保に努めていただいているところです。

神戸空港基本計画(平成2年5月)において、大阪国際空港が存続することを前提に、関西3空港の予想される機能分担をまとめたり、この基本計画をもとに国へ説明し、神戸空港は、平成5年8月に第6次空港整備五箇年計画で、「新規事業」として認められ、平成9年2月に、運輸大臣より飛行場設置許可をいただきました。今後、関西3空港懇談会において、関西3空港の一元管理に向けた議論を進めていくこととしております。

神戸空港ターミナル株式会社は、空港にとって一体不可欠な旅客ターミナル、駐車場等を経営しております、引き続き、サービスの充実と健全経営に努めてまいります。

神戸一関空ペイ・シャトルにつきましては、神戸市及び周辺地域と関西国際空港を相互に結ぶアクセス手段としてご利用いただいておりますが、本年1月までの実績では、乗船客数が昨年度に比べ約3.5%増加しております、引き続き、利用者増に取り組んでまいります。

なお、神戸空港事業につきましては、広報紙・マスメディアなどによる各種広報のほか、ホームページにより適時にお知らせするよう努めています。

神戸市では、今後とも、航空会社や関係機関と連携し、利用者ニーズの把握に努め、神戸空港の利便性の向上に努めるとともに、より多くの皆様に神戸空港をご利用いただけるよう取り組んでまいります。

担当 みなと総局空港事業室推進課
電話 078(322)5038

III. 2010年度事業計画

1. 神戸市政の再生をめざし、引き続き神戸市長選挙に取り組みます。

(1) 2013年神戸市長選挙に向け、一層幅広い枠組みづくりに取り組みます。

(2) 急遽、市長選挙が行われるような事態が生じても、緊急に対応できるように準備します。

(3) 「候補者検討委員会」を設置し、候補者選びの準備をすすめます。

2. 神戸市会議員のあり方について、検討します。

3. 神戸市政分析をすすめ、新「神戸再生プログラム」を策定します。また、2010年秋に「第9回神戸市政フォーラム」を開催します。

(1) 2009年夏、第13次案までまとめた政策「神戸再生プログラム」をもとに、新たな政策策定にとりかかります。

(2) 政策策定の視点は、次の通りとします。

①現在の神戸市政が抱える各種の問題点を徹底的に明らかにします。

- ◆神戸空港問題.
- ◆海上アクセスの赤字問題.
- ◆ポートアイランド2期の用地処分問題.
- ◆外郭団体（第3セクター）問題.
- ◆中央市民病院移転問題.
- ◆六甲シンフォニーホール用地先行取得問題.
- ◆駅前再開発問題（新長田駅南地区、阪神御影駅前等）.
- ◆地下鉄海岸線の赤字問題.
- ◆敬老バス問題.
- ◆市議会の機能問題（陳情、請願の処理）.
- ◆デザイン都市問題. その他.

②神戸市政を継承していくに当たり、できあがった「神戸空港」などの負の遺産の克服・廃止を含めどのように運営・管理するのかという施策を検討します。

③地域（区）ごとのテーマでの活動をすすめます。各地域・区の特性を考慮して、まちづくりに関する研究をすすめ、活動します。

- ◆コミュニティの核としての市場の復活.
- ◆二つの面から見たマンション問題.
 - ・マンション近隣住民にとってのマンション問題⇒用途地域・地区計画.
 - ・マンション住民にとってのマンション問題⇒住環境改善・マンション住民自治.
- ◆自治会のあり方⇒区役所依存の自治会から地元住民が考える自治会へ.

④全国の各自治体ですすめられている施策を参考にします。

- ◆税金の使い方、真のNGO／NPOとの協働、税と福祉.

(3) 政策策定のため研究会や討論集会を開き、その成果を、2010年秋に開催予定の「第9回神戸市政フォーラム」において発表します。

(4) 「第9回神戸市政フォーラム」を開催します。

◎時 期：2010年秋（10月～11月）

◎会 場：神戸市産業振興センター※予定

◎構 成：全体会＋分科会

4. 文化活動を強化するとともに、各界からの要請に応じて積極的に協力します。

5. 情報発信を一新するため、一層HP・ブログを活用するとともに、機関紙「神戸再生」の発行方法を変更します。

(1) HP・ブログの一新により、神戸再生フォーラムの最新情報を伝えます。日常的には、ブログやEメールにて情報を伝えます。

(2) 機関紙「神戸再生」は、緊急性・重要性を基準に発行します。

(3) 「情報発信委員会」を設置し、情報発信をすすめます。

6. 会員を大幅に拡大します。

地域（区）ごとの活動、政策策定の活動、神戸市政フォーラムなどの活動を通じ、会員拡大に力を注ぎます。目標を100人とします。

7. 「財政確立基金」を設置します。

脆弱な財政基盤を立て直すため、「財政確立基金」を設置します。4年間の目標を500万円とします。

8. 当面、現事務所を拠点に活動をすすめます。

共同使用する一団体の解散で負担増となるため事務所の移転も視野に入れましたが、家主の好意的対応により負担減となり、当面1年間は現事務所を拠点に活動をすすめます。

9. 2011年の定期総会までの運営については、次の通りとします。

(1) 「事業計画」の具体化は、代表・事務局会議とそれに次ぐ事務局次長会議にて行います。

(2) 代表・事務局会議にて、事務局長と事務局次長を選出するとともに、「候補者検討委員会」「情報発信委員会」など専門委員会の委員も選出します。

VI. 2010年度役員

役員・顧問候補者一覧

役員 ※50音順

◎代 表：

- ・柴田富士子(重任) (神戸YWCA会員)
- ・竹山 清明(新任) (京都橘大学大学院文化政策研究科教授)
- ・田中 保三(重任) (株式会社兵庫商會社長)
- ・玉川 侑香(重任) (詩人)
- ・中島 淳(新任) (神戸芝居カーニバル実行委員会事務局長)
- ・村井 雅清(重任) (被災地NGO協働センター代表)

顧問 ※50音順

- ・遠藤 勝裕 (日本証券代行株式会社取締役相談役)
- ・田中 康夫 (衆議院議員、作家)
- ・広原 盛明 (元京都府立大学学長)

【資料4】神戸再生フォーラム会則

(附則2. 2005年3月 1日)

(附則3. 2006年4月 3日)

(改正 2006年4月 8日)

(改正 2006年4月 28日)

(改正 2008年4月 6日)

神戸再生フォーラム会則

第1条(名称) この会は、「神戸再生フォーラム」(英文：*Kobe Renaissance Forum* 略称：*REKOBE*) という。

第2条(所在地) この会は、事務所を神戸市内に置く。

第3条(目的) この会は、「一人ひとりの市民が主役のまち神戸」の実現に向け、神戸のすべての問題を住民自治の立場で考えながら、神戸を再生する政策の策定に取り組み、神戸市民に提案していくことを目的とする。

2. 策定された政策の内容を神戸市民に正しくわかりやすくして広めるとともに、「一人ひとりの市民が主役のまち神戸」の実現のため、政策を実行していく人的・組織的準備をすることを目的とする。

第4条 (事業) この会は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ①調査・研究・政策・選挙工学に関する提言
- ②研究会・講演会・シンポジウム等の開催
- ③政策等に関する刊行物の発行
- ④各区の抱える問題と対策を区民とともに提言
- ⑤会の目的と共通する他の団体・個人との共同による提言
- ⑥その他目的を達成するために必要な事業
- ⑦上記に必要な広報活動

第5条(会員) この会の目的に賛同し会の行事に参加の意思あるものを会員とする。

2. 会員名簿は会事務所に置く。

3. 会員は任意に脱退できる。

4. 会は、総会の承諾を条件として、半年以上にわたり連絡が取れない会員を除籍することができる。

第6条(会費) 会費は、年3,000円（一口）以上とする。

第7条(役員) この会に次の役員を置く。

代表 若干名
会計 1名
事務局 若干名
会計監査 1名

2. 代表・会計・事務局及び会計監査は、総会にて選出される。

3. 事務局に事務局長、事務局次長を置く。役員は会計補佐を置くことができる。

第8条(役員の任期) 役員の任期は就任1年後の定期総会開催日終了までとする。

第9条(代表) 代表は、会を代表する。

第10条(顧問) 会は、若干名の顧問をおくことができる。

2. 顧問は、憲法及び地方自治法の精神または国際的な住民自治の視野から会に助言を与えることができる。

3. 顧問は、役員が指名する。

第11条(運営) 会は、毎年1回定期総会を開催し、この会の方針、役員の選出を含む重要事項について審議・決定する。個別に重要事項を審議・決定する必要的都度、会員及び役員の申し出により代表が臨時総会を召集する。

2. 総会の方針に基づき日常の運営は代表・事務局会議で決定し、事務局が執行する。

3. 会のすべての運営は、出席者の過半数の意思をもって決定する。

第12条(区の会) 会は、神戸市内9区に、それぞれ「区の会」を置くことができる。設置について、代表・会計・事務局が決定し、事務局が執行する。

第14条(個人・団体の協力) 会は、第4条の事業を推進するために、会員以外の個人・団体の協力を隨時求めることができる。

第15条(財政) 会費と会の事業、会員及び会の目的に賛同する個人・団体・法人による募金をもって運営する。

2. 会の帳簿は会の事務所(正本)に置く。会計の指定した場所に副本を置くことができる。

第16条(改正) この会則は総会出席者の過半数の同意をもって改正することができる。

以上

附則

1. 会の事務所は当面、神戸市灘区宮山町3-1-16 ステラ六甲202号に置く。

2. 2005年3月1日、事務所移転 神戸市灘区宮山町3-1-16 ステラ六甲111号。

3. 2006年4月3日、事務所移転 神戸市中央区中町通3-1-16 サンビル201号。

【資料5】神戸再生規約

神戸再生規約

- 第1条(名称) この会は、「神戸再生」(英文：REKOB E)という。
- 第2条(所在地) この会は、事務所を神戸市内に置く。
- 第3条(目的) この会は、住民自治の立場で神戸を再生する政策を策定し、その内容を神戸市民に広め、「一人ひとりの市民が主役のまち・神戸」の実現のため、必要な政治活動を行うことを目的とする。
- 第4条(事業) この会は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- ①調査・研究・政策に関する提言
 - ②研究会・講演会・シンポジウム等の開催
 - ③政策等に関する機関紙・刊行物の発行
 - ④上記に必要な広報活動
 - ⑤その他目的を達成するために必要な事業
- 第5条(会員) この会の目的に賛同するものを会員とする。
2. この会の会費は年12,000円とする。
- 第6条(役員) この会に次の役員を置く。
- | | |
|------------|----------------|
| 代表 | 若干名 |
| 会計・会計職務代行者 | 各1名 |
| 事務局 | 若干名(10人を限度とする) |
2. 代表・会計及び事務局は、総会にて選出される。
- 第7条(役員任期) 役員の任期は就任1年後の定期総会開催日終了までとする。
- 第8条(代表) 代表は、会を代表する。
- 第9条(顧問) 会は、若干名の顧問をおくことができる。
2. 顧問は、憲法及び地方自治法の精神または国際的な住民自治の視野から会に助言を与えることができる。
3. 顧問は、役員が指名する。
- 第10条(運営) 会は、毎年1回定期総会を開催し、この会の方針、役員の選出を含む重要事項について審議・決定する。個別に重要事項を審議・決定する必要的都度、会員及び役員の申し出により代表が臨時総会を召集する。
2. 総会の方針に基づき日常の運営は、事務局にて行う。
3. 会のすべての運営は、出席者の過半数の意思をもって決定する。
- 第11条(協力) 会は、第4条の事業を推進するために、会員以外の個人・団体の協力を隨時求めることができる。
- 第12条(財政) 会の事業、会費、寄付金、その他収入をもって運営する。
2. 会の帳簿は会の事務所(正本)と会計の指定した場所(副本)に置く。
- 第13条(会計年度) 会計年度は毎年1月1日から12月31日までとする。
- 第14条(改正) この会則は総会出席者の過半数の同意をもって改正することができる。
- 附則1
- 第1条 本規約は、平成17年1月17日より実施する。

第2条 会の事務所は当面、神戸市灘区宮山町3-1-16 ステラ六甲202号に置く。

附則2 平成17年3月1日事務所移転

神戸市灘区宮山町3-1-16 ステラ六甲111号。

附則3 平成18年4月1日事務所移転

神戸市中央区中町通3-1-16 サンビル201号。

Kobe
Renaissance
Forum